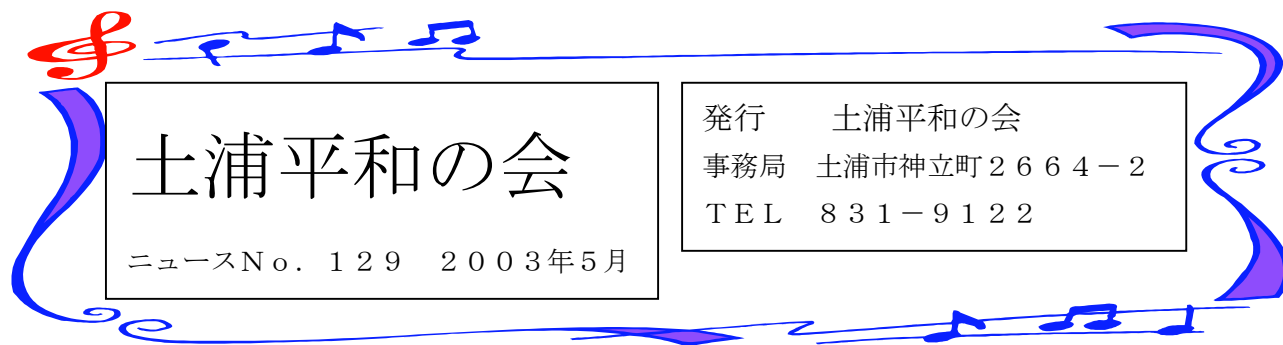


私たちの会費が日本平和委員会と茨城県平和委員会の活動を支えています



土浦平和の会

ニュースNo. 129 2003年5月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 831-9122

会場いっぱいになった“被爆体験を聞く会”

8月8日(日)午後、核戦争を防止し平和を求める茨城医療人の会ほか6団体共催、土浦平和の会後援による“被爆体験を聞く会”が亀城プラザでおこなわれました。在県のアトミカとナガサキ被爆者2人の被爆体験を聞きました。会場は満席で60人が語り部の生々しい被爆の記憶に聞き入りました。

乙藤 勇さん (ナガサキで被爆)

14歳のとき被爆したが幸いにも山の東側にいたため、かすり傷ひとつ受けなかった、瞬間何事が起こったのか全く分からなかったが、6人兄弟の何人かが原爆症にかかり弟は頭のとっぺんが禿げた。戦争をやってはいけない。核兵器を持たせたくなくなるのが人間だから、無くすのが一番だが、核の被害を受けないためには戦争をしてはいけない。このことを何度も強調されました。

茂木貞夫さん (ヒロシマで被爆)

11歳のとき1・3キロの地点で被爆。体は道の反対側の家の下敷きになり、一瞬何がなんだか分からなかった。妹に言われるまで気づかなかったが、皮膚は真っ赤に焼け薄皮がむけていた。目が塞がり、口も開かなくなって食べることもできなかった。

茨城で550人の被爆者がいるがいま被爆者協議会に参加している人は180人。みんな励ましあって、生きていくために助け合っている。被爆者だけでなく戦争の犠牲者が沢山いる。こんな悲惨な戦争は絶対に繰り返してはいけない。

今年も盛会だった

8.15終戦記念日を考える市民のつどい

50人以上の呼びかけによって開催された8月15日のつどいは残留孤児池田澄江さんを迎えて土浦ワークヒルで行われました。生後10ヶ月で中国人の養父母に預けられ、81年に帰国調査が始まるまでの大変な苦労、出会った父親は実父ではなかった。94年に実姉との奇跡的な出会いまで51年間自分の名前を知らなかったという数奇な身の上に約100人の参加者が真剣に聞き入りました。

